



▲石の下には何がいるかな？

自然の中で学ぶ ～ウォーター・アドベンチャー～ 〈わんぱく野洲川探検隊〉

野洲川に親しみ、水の大切さや施設の役割を知ってもらおうと毎年開催されているウォーター・アドベンチャー。今年はおもろか荘周辺で8月19日に開催され、野洲川沿岸5市に住む小学5・6年生77名が参加しました。午前中のウォークラリーでは野洲川ダムに関するクイズに挑戦しながら、目標タイム60分でゴールをめざしました。午後には水生生物の観察が行われ、カワヨシノボリやヘビトンボなどを採取。集まった生き物とそれらがすむ

水環境について、みなくち子どもの森の学芸員から解説があり、児童たちはメモをとりながら熱心に聞いていました。



▲学芸員の解説で野洲川の生き物と水環境を学ぶ児童たち



▲静電気の実験に真剣なまなざし(「今、科学がおもしろい」より)



▲焼き物の説明を熱心に聞く子どもたち(「地域を知ろう!!」より)

心に響く体験で
感性豊かに
—夏休み、心も体もたくましく—

今、子どもたちは忙しい生活に追われ、花を見て美しいと感じ、人とのふれ合いで優しさを知り、新しい発見に感動する機会が少なくなっています。夏休みは学校が休みになるだけではなく、地域行事や家のお手伝いなど、学校生活では学べない体験ができる貴重な時間です。子どもたちは、さまざまな体験を通して本物に出会い豊かな感性を育みます。夏休みを利用して心に響く体験をし、心も体もひとまわりたくましくなった子どもたちの様子をスナップしました。

隣のおじさん、おばさんが先生に ～かむら子ども育ちの会～

甲賀町神区で夏休み期間中の水曜日、「かむら子ども育ちの会」が行われました。子どもたちが地域で楽しく学習できる場を設けようと2年前から開催されており、区のボランティアによって運営されています。子どもたちは最初の1時間は自主学習、その後、体験活動を行います。これまで、釣り、おやつ作り、かぎ針編み、木工工作など、地域の方が先生となりさまざまな活動が実施



▲お年寄りにグラウンドゴルフを教わる小学生

地域全体を子どもが育つ場に

「かむら子ども育ちの会」は、子どもと大人が互いに顔と名前を一致できるような地域づくりをめざし始めました。家庭ではなかなかできない体験を地域で行うことは、住民同士の交流の機会にもなっています。子どもたちが安心して学び遊べるよう地域ぐるみで見守っていきたいと思います。(ボランティアの女性)

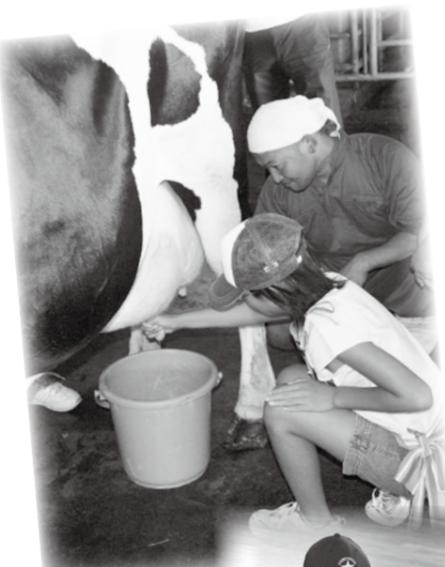
▲8月13日にはコスモス畑に立てる看板を作製



8月20日には23名の小学生が参加。里山かむら交流館でそれぞれに持ち寄った宿題をした後、運動公園に移動し、地域のお年寄りからグラウンドゴルフを教わりました。

甲賀市のこんなところ 見つけたよ！

～夏休み子ども体験講座「地域を知ろう!!」～



▲ 牧場で牛の乳しぼりを体験

甲賀市の歴史や文化を体験しながら学ぶ夏休み子ども体験講座「地域を知ろう!!」が8月20日開催され、市内の小学生27名がバスで一日かけて市内



▲ 水口歴史民俗資料館で奥山の歴史を学習



▲ 焼杉の花びん立て作りで奮闘中

5地域を巡りました。甲賀市の象徴ともいえる信楽焼たぬき・忍者・奥山の歴史を学んだほか、牛の乳しぼりや、焼杉の花びん立て作りにも挑戦しました。市内にはまだまだ知らない場所があることに気づいた児童も多かったようですが、最後には「地域のことがわかってよかった」、「たかさんの人と仲良くなれた」と話す子どもたち。この日の体験を友だちにも広め、自分の住んでいるまちを見つめ直して、より一層好きになってほしいものです。

不思議な実験に目を輝かせ

～今、科学が面白い 夏休み学習会～



▲ 静電気の実験をする子どもたちと出口先生

相模教育集会所で、8月25日、26日、28日の3日間、「今、科学が面白い 夏休み学習会」が開催され、地元の小中学生16名が科学実験を楽しみました。地元に住む元中学校の理科の先生が講師となり、1日目はストローのトロンボーン作り、2日目はラムネ作り、3日目は静電気を発生させる実験を行いました。やり方や条件が少し違っただけで、思うような結果とならないこともありましたが、異なる学年の児童が助け合い、興味深く実験に取り組むことができました。

失敗から学ぶことが大切

講師 ● 出口 義久さん

今回の講座では、理科を学ぶというよりも「なぜ?」と疑問を持つことから勉強を始めましょうと子どもたちに話しました。実験では成功より失敗の方が多かったですが、なぜ失敗したかを考えることが大切です。最初は理科が苦手と言っていた子どもたちですが、3日間の学習を終え、すごく楽しかったと感じてくれた子がほとんどでした。これからも「なぜ?」を忘れず、失敗してもあきらめずにチャレンジしてってもらいたいものです。



▲ おいしいラムネができるかな?

子どもたちの好奇心に応える

～企業による講座～



▲ 光の万華鏡作り (関西スリーエム)

市や地域が主催する体験活動のほか、市内の企業でも小学生を対象とした学びの場を提供されています。7月から8月にかけて、各企業では、社員の方の指導で科学実験などが行われ、参加した児童は、真剣なまなざしで取り組んでいました。



▲ 印刷技術と環境の関係を学ぶ出前講座 (日本写真印刷)



▲ 夜空に光る液体を作る実験 (積水化学工業)

体験活動は生き方学習

私たちは生きていく上で、社会や自然の中に存在するものやことに関わり、体験を通して多くのことを学んでいます。

体験する中で、その対象を見るだけではなく、音を聞いたり、直接触れたり、においを嗅いだり、味わったりするかもしれません。じかに関わるとききの身体感覚や運動感覚など、あらゆる感覚を駆使して学習します。



▲ 「もっと左!」みんなの声を頼りにスイカ割り



▲ 空き缶を作ってうまくご飯が炊けるかな?

また、子どもたちにとって、この夏の体験活動は、ものごとを知るだけでなく、仲間や地域の人々との関わり、命や自然の大切さなどを学ぶ機会にもなりました。自然の力や不思議と向き合い、失敗を繰り返しながら、これから自分たちが生きていく上での大切な基礎となることを、体験から学びました。